

## 環境行動目標と実績報告

カシオは、製品と、工場・事業所にかかわる行動目標とに分けて環境行動目標を推進しました。2007年度の実績と2008年度の改訂目標について報告します。

### 2007年度 カシオ環境行動目標実績報告

テーマ	行動目標	2007年度末実績 (対基準年度比)	自己評価
<b>製品にかかわる行動目標</b>			
1: 環境適合製品の開発目標	① 2008年度グリーン商品の売上比率80% ② 2007年度までに、包装材の総使用量を30%削減(2000年度比)※1	77%達成 24.2%削減	★★ ★★
<b>工場・事業所にかかわる行動目標</b>			
1: 省エネルギー目標(電力・燃料等)	① 国内拠点: CO <sub>2</sub> 発生量を2010年度までに20%削減(2003年度比)※2 ② 海外拠点: CO <sub>2</sub> 発生量を2010年度までに10%削減(2004年度比)※3	1.9%増加 4.6%削減	● ★
2: CO <sub>2</sub> 以外の温室効果ガス削減目標	① 2010年までに、CO <sub>2</sub> 以外の温室効果ガス総排出量(CO <sub>2</sub> 換算)を2000年以下とする	12,404トン-CO <sub>2</sub> 増加	●
3: 省資源目標	① 国内生産拠点: 水使用量を2008年度までに10%削減(2000年度比)※2 ② 海外生産拠点: 水使用量を2008年度までに5%削減(2004年度比)※3 ③ 国内拠点: 紙使用量を2008年度までに30%削減(2003年度比)※2	5.5%削減 25.9%削減 8.7%増加	★★ ★★★ ●
4: 廃棄物削減目標	① 国内拠点: 廃棄物発生量を2008年度までに40%削減(2000年度比)※2 ② 海外生産拠点: 廃棄物発生量を2008年までに10%削減(2004年度比)※3	32.0%削減 8.6%削減	★★ ★★
5: VOC(揮発性有機物)削減	① 国内生産拠点: VOCの大気排出量を2010年度までに30%削減(2000年度比)	7.3%削減	★★
6: 有害物質の使用禁止	① 保管中のPCB含有機器を、日本環境安全事業(株)のエリア別事業開始に合わせ無害化処理を行う。 *羽村・八王子技術センター: 2007年度まで *甲府カシオ: 2008年度まで	羽村・八王子技術センターのPCB含有機器は、無害化処理のため事業者引渡し完了。 (ただしJESCOの処理方針により低濃度のもののみ引き渡し待ち)	
7: PRTR法対象化学物質の排出量削減	① 国内生産拠点: 排出量を2010年までに10%削減(2003年度比)※2	59.8削減	★★★
8: グリーン調達の実施目標	① 国内・海外拠点: 2007年度、グリーン部品回答率(調査対象部品に対する)100%	国内外ともに100%達成	★★★★
9: グリーン購入の実施目標	① 国内拠点: 文具・事務用品、OA機器類のグリーン購入比率60%(件数ベース)	66.4%達成	★★★★
10: 物流の温暖化対策目標	① 国内物流の効率化によるCO <sub>2</sub> 発生量を2007年度50%削減(2000年度比)※1 ② 海外物流の効率化によるCO <sub>2</sub> 発生量を2007年度5%削減(2004年度比)※1	41.6%削減 5.5%増加	★★ ●

■原単位について ※1: 売上高原単位 ※2: 実質生産高原単位 ※3: 生産高原単位  
 ■自己評価 ★★★★★: 目標値を達成しかつ新たに高い目標値が設定された ★★★★★: 目標値を達成した ★★: 目標値は未達成だが前年より着実に改善された  
 ★: 目標値に推進中、次年度以降に成果が見込まれる ●: 基準値と同等かまたは悪化している

>>>資料・P⑩「2007年度 カシオ環境行動目標実績報告(詳細版)」

### 環境行動目標の新しい展開

環境経営基盤の強化は、「環境と企業の持続可能な成長を知っている」というレベルから、「そのための具体的な活動をしている」という新たなステージへランクアップすることを意味しています。カシオにおいて、その「している」とは、

- 温室効果ガスCO<sub>2</sub>の削減を原単位削減から絶対量削減へ
- 製品のライフサイクル全工程を見わたした省エネ・省資源活動
- 環境技術や環境商品開発を通じたイニシアチブの発揮

という要求を先導的に果たしていくことと考えます。

カシオは、2008年度の環境行動目標に温室効果ガスCO<sub>2</sub>削減について「オフィス系事業所のCO<sub>2</sub>総排出量を絶対値で削減する」という目標を掲げました。

グループ内でCO<sub>2</sub>排出量の多い分野である「物流工程(直接・間接物流)における排出量の掌握と削減」の取り組みもカシオ環境ボランティアプランに組み入れました。

デバイス事業部では、京都議定書の温室効果ガスSF<sub>6</sub>の「代替ガス開発」を環境技術開発目標にして、先駆的な貢献を果たそうとしています。

>>>資料・P⑧「2008年度 カシオ環境行動目標」